

○事業所名	社会福祉法人千葉県福祉協議会 障害者支援施設ローゼンヴィル藤原		
○保護者評価実施期間	令和7年1月31日		～ 令和7年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和7年2月12日		～ 令和7年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

※ 児童発達支援は契約者がいない為、放課後等デイサービスに準じて評価を行っている。

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ●環境・体制整備面、業務改善の項目に関しては、ほぼ全ての項目を実施できている。 ●入所施設の中に活動場所がある為、ご入居者や多くの職員と関わる機会があり、広く社会参加ができる環境がある。 ●施設内外での研修の機会が多く、職員の資質向上に力を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症予防対策として新型コロナウイルス流行以降、活動場所を変更し別室にて行っていたが、令和6年度に元の活動場所に戻している。ご入居者や入所施設の職員との交流も図れており、様々な方と一緒に活動する事で、積極的に社会性を育める場所となっている。 ●職員同士のコミュニケーションを積極的に取っており、研修内容の共有も積極的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご入居と共同参加のイベントを行ったり、活動の準備を一緒にしたりと、交流の機会を増やして行けるよう取り組んでいく。 ●制度上必要な研修については網羅しているが、より支援を充実させられるよう、児童指導員や保育士の専門制に関わる研修についても検討していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な支援の提供に関する項目に関しては、ほぼ全ての項目を実施できている。 ●5領域の項目に関する支援や、支援プログラムの作成において、児童指導員や保育士、看護師、作業療法士等、チームで内容を考え、意見を出し合いながら実施ができている。 ●活動内容の選択、使用する道具の選択等、自身で選択しながらオリジナルの作品や個々の心身状況に合わせた活動が行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●個別の活動プログラムが固定化しないように、ご本人達の成長に合わせて一つ一つ目標を立てて取り組んでいる。同じ活動でも、活動の実施方法やアプローチの仕方を変え、ご本人達のできる事や挑戦したいという気持ちを大切にしながら、環境の調整を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●個別のプログラムはチームでアイデアを出し合いながら企画している。ご利用者一人一人の成長に合った支援を実施していく為に、児童指導員や保育士が専門性を発揮できるよう、療育活動に関わる情報収集を行い、提案していく。 ●ご本人達の成長に繋がるよう、活動のバリエーションを増やし、楽しみながら発達支援ができるよう、情報収集や専門職との意見交換を行っていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関や保護者との連携、保護者への説明については、概ね項目について実施できている。 ●日常のコミュニケーションを通して保護者との情報共有を図っており、学校の教諭や相談支援事業所を中心に情報共有を図っている。 ●実習生やボランティアの受け入れを入所施設と合同で行っており、学生同士や地域の方との交流が図れるよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常的なコミュニケーションや、定期的な個別支援計画の説明等に、アセスメントや意思確認、困りごとの確認等が行えるよう、取り組んでいる。 ●ご本人達の活動時の様子を具体的にお知らせできるよう、SNSやブログ、広報誌等で発信を行っている。 ●感染症対策を講じながらも、実習生やボランティアの受け入れが積極的にできるよう、説明会や地域の方との交流を通して連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者を通して、ご本人達の情報共有をする事はできているが、関係機関同士の交流の機会が少ない。事業所協議会や児童発達支援センター、学校との意見交換会等に積極的に参加し、関係機関が連携して支援を考えられるよう、連携を強化していきたい。 ●コロナ禍以降、ボランティアの方の活動の機会が減ってしまった為、感染症対策を講じながら、交流の機会を増やせるよう、新たな交流方法について検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ●環境・体制整備面、業務改善の項目に関して、保護者より活動場所が直接見られない為、職員配置やスペース、生活空間に関してわからないとの回答が挙がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症予防対策により、活動場所へ保護者をご案内できてない事が要因として考えられる。また、送迎対象の方は事業所に来館されることが稀な為、わからないとの意見が挙がったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動の様子や活動場所の様子を、写真や広報誌、SNS等で定期的に発信をしている。しかし、発信の内容がご利用者の様子が主体となっており、活動全体や活動場所の様子が分からない状況になってしまっている。活動風景全体が分かる写真や、動画等を取り入れ、広報の内容を工夫する事で改善していく。 ●保護者より希望があった際には、感染症予防対策を実施しながら、活動場所の見学等についても実施していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な支援の提供に関する項目に関しては、地域の他の子どもと活動する機会がない、またはあるか分からないとの回答が保護者、職員より挙がった。 ●プログラムが固定化しないように工夫しているという項目に、職員よりどちらとも言えないとの回答が挙がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童館や放課後クラブとの交流は、感染症予防対策や周辺施設への移動距離の兼ね合いから、実施していない。 ●プログラムが固定化しないように工夫は行っており、新しいイベント等も毎年取り入れている。しかし、まだ専門職と共同で行う活動や、新しい活動の取り入れについては工夫の余地があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●放課後ルームや児童館との交流は行っていないが、地域のボランティアの方や、学生の実習等は実施している。同じ学生との交流は行えている事から、交流の様子が分かるよう、広報を行っていく事で改善していく。 ●学校見学会や、他事業所との意見交換、療育に関する研修や情報収集等を通年通して行っていく。また、各専門職と共同で活動を考案し、よりバリエーションが豊富な活動を提供できるように取り組んでいく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関や保護者との連携、保護者への説明については、父母の会や保護者会の開催、医療機関や他事業所との連携、ペアレントトレーニングの実施、子育てに関する助言等に、分からないやどちらとも言えないとの回答が複数あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関との連携については、相談支援事業所や学校と主に情報共有を行っている。その他の機関とは必要に応じて連携を図る事としており、現状直接連携を取る機会はない。情報共有は、ご家族を介して行っている。 ●保護者との連携に関しては、日常的なご利用者の情報共有は行っているが、ペアレントトレーニングや子育ての助言までは行っていない。父母の会や保護者会に関しては開催していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●サービス担当者会議、放課後等デイサービス事業所協議会、児童発達支援連携会議、重症心身障害日中活動支援協議会等に参加し、関係機関と連携が図れるよう努めていく。 ●保護者と日常的なコミュニケーションは図れているが、お迎えの短い時間の中で深く話ができていない状況がある。職員同士で保護者の想いについて話し合い、普段からのコミュニケーションの際にも、保護者の気持ちや周囲の状況について考えながら、話を伺えるようにしていく。